



2015・12・11

第 224 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

2000 万人統一署名成功へ交流し励ましあって

野党の選挙協力にも強い期待

戦争法廃止をめざす新たな運動に向け、各地で交流の場がもたれています。その中では 2000 万人統一署名を地域のすみずみにまで広げることや、来年の参院選に向けて野党間の選挙協力が欠かせないことが共通して論議されています。

【新潟県／新潟県 9 条の会】 新潟県 9 条の会は 11 月 14 日、新潟市で全県交流集会を開き、26 の会から 64 人が参加しました。

阿賀野市の会は「共産党が提案した国民連合政府によって、九条の会が活動するには一番ふさわしい舞台が与えられる。今まで以上の連日宣伝、ニュースの毎月発行と宛名封筒による郵送、500 人への会員拡大に挑戦したい」と強調しました。

加茂市の会は「戦争法案廃案の意見書請願を採択させるために、ガリガリの自民党市議を重点に要請し、傍聴多数の中、予想が覆り採択された。パレードも予想の 3 倍 150 人が集まり、参加できなかった人から、次はいつやるのかと言われた」と述べました。

湯沢町の会は「観光の町として、平和なくして観光なしという意味から、九条の会で

はなく『湯の町湯沢・平和の輪』の名称にしている。ブログを毎日更新して注目され、明治大学の会から活動の話聞かせてほしいと、新幹線で来て懇談した」と紹介しました。

まとめの発言をした工藤和雄事務局長(弁護士)は「私たちは 9 条を取り戻し、戦争法廃止の大きな連帯で全国の名も知らない人たちと大きな希望を共有している」と強調し、2000 万人統一署名や 3、9、19 日にいっせい行動に立ち上がることを呼び掛けました。

沖縄のたたかいとの連帯を強調

【福島県／福島県 9 条の会】 立憲主義破壊を許さず憲法 9 条が輝く未来をと、福島県九条の会主催の県民のつどいが 11 月 23 日、郡山市で開かれ、多彩な人たちが参加しました。

県九条の会の吉原泰助代表は「安倍首相は『それは私が決めること』『私が最高責任者だ』などと、絶対王政がやっていたことと同じことをしている。法に従わない政治は一刻も早くやめてもらわなければならない」と強調。戦争法廃止の 2000 万人統一署名に全力をあげ、来年の参院選で与党を過

半数割れに追い込もうと訴えました。

小林武沖縄大学客員教授が「『オール沖縄』から新しい日本を展望する」と題して講演。辺野古新基地問題の現状に言及し、「危険性除去」のためには普天間基地の閉鎖・撤去こそ必要だと語りました。また「安倍首相に率いられる政治運営はストップしないとイケない。野党の共闘、政権構想などを国民の中で大いに討論し、良い方向を見いだし、していくことが求められる」と述べました。

戦争法に反対する若者有志の会のメンバーが戦争法反対のただたかと思いを語りました。

街頭での訴えに大きな手ごたえ

【青森県／青森県九条の会】 青森県九条の会は11月25日昼、青森市新町商店街で12人がビラを配布しながら、「強行採決から2ヵ月経過した今も全国で戦争法廃止を求める運動が広がっている。私たちも廃止にするまで反対の声を上げ続ける」と呼びかけ、戦争法の廃止を求める2000万人統一署名を訴えました。

戦争を体験した年配の女性や、若い人が署名に応じました。署名した人たちは、「戦争法の危険性を理解する人が増えれば、廃止できると思う。がんばってください」(女性・25歳)、「安倍首相の独裁を止めなければ、私たちの自由が奪われるのではないかと不安だ。早く、政権が代わってほしい」(男性・75歳)と話しました。

【神奈川県湯河原町／湯河原女性9条の会】 「湯河原女性9条の会」は「戦争NO！戦争法の廃止を求める湯河原・真鶴・泉の会」とともに、11月19日、JR湯河原駅前

で「19日行動」に取り組みました。

参加者19人が戦争法廃止を求める2000万人統一署名にとりくみ、町民や観光客らに訴えました。署名は、これまでで最多の48人分が集まりました。

【広島県／女性9条の会・ひろしま】 女性9条の会・ひろしまは11月19日、広島市中区のメルパルク広島前で「憲法9条を守りましょう」の横断幕を掲げ、総がかり行動実行委員会が呼びかけた2000万人統一署名を集めました。

12人が参加して「戦争法廃止を！」と書いたビラを配り、ハンドマイクで「戦争しないと決めた憲法9条を踏みにじる憲法違反の法律は、廃止するしかありません」とリレートークをしました。

署名に応じた平井祐喜子さん(46)は、「日本はアメリカの従属国になっているので、戦争するアメリカを助けたら、日本も戦争に巻き込まれてしまう」と語りました。

「強い味方は日本国憲法」

【愛知県岡崎市／おかざき九条の会】

11月21日、おかざき九条の会が結成10周年記念「憲法をつどい」を開きました。会場に入りきらないほどの540人が参加し、安倍政権に対する危機感が浮き彫りになりました。

事務局長の荒川和美弁護士は「安倍政権は平気で憲法をふみにじり、安保法制をさらに推し進めようと躍起になっている。憲法を守るたたかいを発展させよう」とあいさつしました。

浜矩子同志社大学教授が「早く行きたい、安倍政治の向こう側」と題して記念講演。

「経済活動というのはそもそも人を幸せにすることが原点。貧困や格差を広げ、人を不幸にするアベノミクスは、経済政策と呼べるものではない」と批判。「強い味方は自由、無差別、互恵の理念を持った日本国憲法であり、憲法9条だ」と強調しました。

岡崎市出身の音楽家2人によるミニコンサートも行われました。

参加した津田公子さん(72)は「国民が安倍政治ノーの声を大きくあげて政府に届けなければいけない」と語り、山村博偉さん(73)は「誰のための経済、誰のための政治か、原点に立ち返って教えられた思いだ」と話しました。

地域の歴史に戦争の悲惨さ学ぶ

【和歌山県由良町／「九条の会ゆら」】

「九条の会ゆら」は11月14日、「第11回戦争体験と平和への思いを語り継ぐ会」を開きました。

由良町にある光専寺の北山通昭住職(83)は、戦争法の強行採決をきびしく批判。「安倍内閣は、戦時体制への準備を着々とすすめている。けわしい道だがみなさんと手を取り合って、子や孫の代まで戦争の惨禍を再び起こさないように団結しよう」とよびかけました。

ベニヤ板製の特攻艇「震洋」の搭乗員だった由良町在住の中塚清さんから聞き取った戦争体験を「九条の会ゆら」の池本護事務局長が特別報告。本土決戦の拠点と位置付けられた軍港・由良町に、「震洋」、人間魚雷「回天」、人間機雷「伏龍」の3つの特攻基地があったことを報告、戦争法をぜったいに許してはならないと廃止を訴えました。

由良町議会の玉置一郎議長の平和を願うメッセージが紹介され、由良女声合唱団の歌声が参加者を魅了。群読「生ましめんかな」(原子爆弾秘話)や、「みんなで話し合い」も実施されました。

【群馬県前橋市／かいがや9条の会】

群馬県前橋市の「かいがや9条の会」は、このほど開かれた桂萱(かいがや)地区文化祭で「地域から戦争を考える」をテーマに軍馬について調べた作品を展示しました。

戦時中は「軍馬」供給のため、家庭で馬を飼育させ、学校の庭に馬を集めて、軍馬として使用できる馬を鍛錬馬として選びました。

同会では、戦後70年の今年、過去の戦争で兵士と同じように戦場に送られた「軍馬」について調べてみよう、関係者を訪問したり、図書館で調べたりしました。模造紙1枚に調査結果をまとめた作品「戦争と軍馬」は、日清戦争から始まった日本の対外戦争と軍馬の歴史を紹介しています。

展示を見た人たちからは「家で飼っていた農耕馬がつれて行かれたと親から聞いた」、「桂萱地域でこれだけの調査をした団体はない」、「戦争は悲惨だよね」などの感想が聞かれました。

【長野県伊那市／竜東9条の会】

竜東9条の会は、「平和の集い」をこのほど行い、7人が戦争体験や、戦争法、平和憲法について意見発表しました。

戦争体験者の三澤豊さん(93)は、「満州(中国東北部)へ渡り、戦友に戦争反対と言う人がいて驚いた。『幹部候補生になりたくない』と言ったら、冷たくされた。中国軍に肩を撃たれ、骨に弾が入っていて手術もで

きず今でも痛む」。

中村光利さん(77)は、「7歳まで中国にいた。終戦直後、憲兵などは中国人の馬に引きずられていたが、父は稲作指導していたので迫害はなかった。引き揚げた後の開拓生活は悲惨だった。水もなく雨水を飲料にして、水運びが子どもの仕事だった」。

原久子さん(75)は、「叔父が戦死し、その家族5人を引き取り、山村の三反百姓で20人もが暮らした。叔母はショックで、いつもぼんやり立っていた」などと、時に涙を浮かべて語りました。

ママの会メンバーと思いを共有

【愛知県／あいち女性九条の会】 あいち女性九条の会は11月21日、「平和と民主主義を語るつどいを開き、「だれの子どもも殺させない」—安保関連法に反対するママの会@愛知の人たちを招いて、思いを語り合いました。

つどいには30人が参加。開会あいさつで女性九条の会共同代表の野間美喜子さんが「平和を守る運動に期限や終わりはありません。ママの会や若者の運動に学び、運動を発展させましょう」と話しました。

ママの会の中心メンバー、宮崎里香さんが発足の経過や取り組みを紹介。「今年7月、フェイスブックで呼びかけたら、またたく間に100人を超える人から賛同が寄せられました。連絡や情報は主にフェイスブックやツイッターです。さらに賛同者を増やしたい」と述べ、各地域では戦争法だけでなくマイナンバーやTPP(環太平洋連携協定)問題にも取り組んでいることも報告。「名前もこだわらず、『明日の子どもの自由と安全を

考えるママの会』と名付けてさまざまな運動を始めています」と話しました。

名古屋市天白区に住む2人の子どもの母親は「ネットで7月、緑区のママの会のスタンディングアピールを知ったのがきっかけ。天白区でもとママ友に呼びかけ、8月には2回宣伝しました。みなさん子育てで大変ですが、子どもの未来のためにとがんばっています」と強調しました。

2年前に東京から東浦町に来た女性は、「ママ仲間と町議会へ『戦争法案反対』の請願を出そうとしたら何もわからず、ネットで知多半島九条の会を知り、相談して請願を提出しました。東浦九条の会の人たちとも交流するようになり、共同で12日にマイナンバーカフェを開きました。次は憲法カフェやTPPカフェを開きます」と語りました。

あま市の女性は「ホームページで議員の連絡先を調べて働きかけると、共産党や民主党など5人の議員が戦争法案反対を表明してくれました。議員を通じて地域の九条の会の人たちともつながりができました。九条の会の人たちとコラボができたらいいいですね」と語りました。

女性九条の会の人たちからは、「30、40歳の若い人たちの取り組みに励まされた」の意見が出されました。

女性九条の会の共同代表で俳優の山田昌さんは、戦争中の勤労学徒の状況や戦後の演劇活動の困難さを紹介。「戦争はだめ、9条は守れ、の声をもっと広げなければ。高齢者から若者まで、戦争法廃止の運動を広げられるよう大いに工夫しましょう」と訴えました。